

コロナ禍の逆境に立ち向かい、本年度も学生アスリートが大舞台で輝きを放った。門出の春。希望に満ちた新天地で挑戦を続ける本県選手たちを紹介する。

希望満ちた新天地へ

真の日本一を見据えて

足大付高 ↓ 東洋大

レスリング

植木

優斗

学生の枠を超え、正真正銘の日本一を目指す。レスリングの栃木国体王者・植木

木優斗(足利大付高)は東洋大に進む。高校で初めて全国の表彰台に立ったのは、2年春の全国選抜大会。92kg級で準優勝し、大学側からの勧誘が本格化した。

①

前途洋々

本県アスリート進路

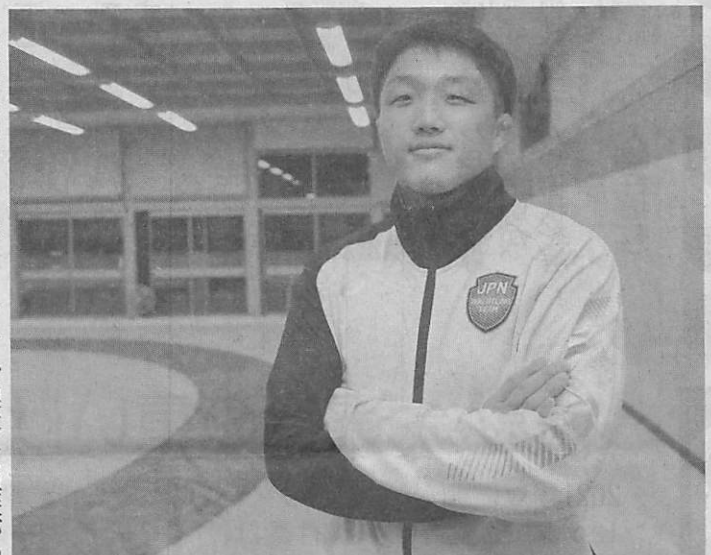
東洋大は、16大学で構成される東日本学生リーグ1部所属。近年は上位に食い込めていない。2021年東京五輪で日本代表コーチを務めた前田翔吾さんが

指導しており、「コーチの元で学びたい」と、ほかの強豪からの誘いを断り門をたたいた。日本代表や社会人も出場する全日本選手権などの頂点を見据える。

昨年、国体と全国高校生グレコローマン選手権を制覇。日本一になるのは、さくら市少年クラブに通っていた氏家中3年のとき以来で「勝てない時期が長かった」と振り返る。

高校2年の秋以降、鍛える部位を毎日変えて筋力トレーニングに取り組み、食事の量も増やした。90kgに満たなかった体重を階級の92kgまで増量。技の威力と精度が高まったといい「最後まで諦めない自分の強みが生きた」と胸を張る。地道な努力が最高の結果につながった。

今年1月、日本高校選抜の一員として米国遠征に参加。日本代表のジャージに袖を通し、海外選手と試合を重ねた。国際試合で活躍する同級生の話に積極的に耳を傾け、世界で戦う意欲も湧いた。



東洋大に進みレスリング日本一を目指す植木 さらら市

高校では理系クラスでトップの成績。文武両道を貫いてきた。将来は教員と指導者を目指す。レスリング用のシューズ製造にも興味がある。「何かの形で競技に関わっていききたい」と夢を膨らませている。(田井伎)

高校選抜スポーツ

全国高校選抜スポーツは27日、岩手県花巻市総合体育館ほかで各競技を行った。

バドミントン女子ダブルスの遠藤美羽・鈴木優芽組(作新学院)が1、2回戦を2-0で快勝して8強に進出。準々決勝で青森のペアに0-2で敗れた。卓球の男子シングルス

レスリング

(新潟市東総合SC) 団体1回戦

足大付 6-1 鳥取中央育 (鳥取)

同2回戦

足大付 4-3 丹後緑風 (京都)

同3回戦

日本大 6-1 足大付 (千葉)

準決勝で新井輝瑠(足利工)は1-3で敗れ決勝進出はならなかった。レスリング団体の足利大付は3回戦で日本大柏(千葉)に1-6で敗れ8強進出を逃した。